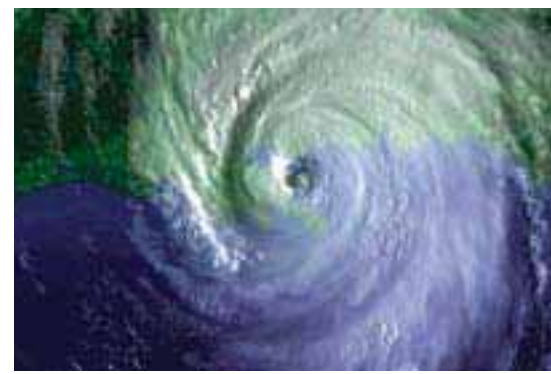


大多数の人は避難したが、それでも移動手段を持たない人々など10万人前後が市内に留まっていたといわれる。

カトリーナ通過後、ニューオリンズ市の公共サービスは完全にストップし、市内の完全封鎖を含む緊急事態宣言が出された。そのため、市内最大の避難所「スーパードーム」に避難していた住民はテキサス州アストロドームへ移されたが、備蓄材が欠乏し高齢者などの衰弱死が相次いだ。

カトリーナの犠牲者は10月3日時点で1000人を超え、損害保険対象被害額は344億ドル（約3兆9200億円）に達した。



米海洋大気庁の気象衛星「ノア」が撮影したハリケーン「カトリーナ」
〔写真提供 / EPA = 時事〕

◀ハリケーン直撃から2週間たっても依然として冠水しているニューオリンズ市街地
〔写真提供 / EPA = 時事〕

海外での災害

パキスタン地震

災害発生日 平成17年10月8日

主な被災地 パキスタン北東部カシミール地方

厳冬直前の山間部を襲った大地震 死者7万人、被災者300万人以上に

パキスタンで厳冬直前の山間部を大地震が襲い、数百万人が家を失った。地震の被災地域は数百km²におよび、インフラや生活基盤の破壊度では2004年末のスマトラ島沖地震を上回る規模となった。パキスタンは、想像を絶する被害に見舞われた。

10月8日8時50分（日本時間同日12時50分）パキスタン北東部のカシミール地方を大地震が襲い、パキスタンからインド北部、アフガニスタンへと広い範囲に大きな被害を与えた。

ユーラシアプレートとインド・オーストラリアプレートの境界にあたるこの地域では、1935年にマグニチュード8クラスの地震が発生し、その後も93年のマハシュトラ州地震、2001年のインド西部地



震などたびたび大地震に見舞われた。今回の震源地は首都イスラマバードの北東約95km地点で、イスラマバードでは外国人が多く住む高層アパート5棟のうち2棟が全壊し、住民の多くが生き埋めになった。ここに住んでいた日本人一家3人も被災し、2人が犠牲となった。

イスラム信者が全国民の約97%を占めるパキスタンでは6日にイスラム教の宗教行事ラマダン（断食月）が始まったばかりで、早朝礼拝を済ませて家で寝込んでいたため逃げ遅れ、人的被害が拡大。死者はパキスタンだけで7万3000人を超え、被災者は300万人に達した。また、家屋の倒壊で数百万人が自宅を失った。さらに粗末なテントでの集団生活、上下水道などインフラの破壊、食料や飲料水不足による低栄養状態が相まって、被災地域の衛生状態は極端に悪化した。

壊滅的な被害を受けたバラコート市内〔写真提供 / 読売新聞社〕

